

私達の長穂

陽春号

編集発行

住みよい長穂
を作る協議会

No. 36

平・元・四・二五

三百万円(シ)の創生費として

長穂地区に、その使い方を!!

住みよ長穂を創る協議会長 国兼基弘

この三百万円は、長穂地区の、歴史、伝統、文化、産業など、長穂の特色を生かし、自らが考え、自らが行う地域づくりのために、徳山市内各地区に交付されるものであります。長穂地区も、この三百万円の受入れのため、地域の特性、課題が何であるかを認識し、早急に地域づくりの施策を決定しなければなりません。この事業の内容は、地域の特産品の開発、イベントの開催、健康づくり、福祉サービス、生涯教育の推進など、幅広いものですが、このたび交付される三百万円を起爆剤として、永続的に取り組みのできる長穂の「地域づくり」を、皆さんに家族ぐるみで考えて頂き、最良なるものを生み出したいと思っております。独創的、個性的な良いアイデア、ご意見などを、五月十日頃までに、長穂公民館にお寄せ下さい、お待ちしております。

公民館の運営と使用について

公民館運営審議会長 藤本富夫



旧長穂荘が改装されそれを完了した新しい公民館は、講座室も会談室も大小とあり、実習室、図書室、特別教室も広さも設備も充実されたものが出来ました。然しこれが常時空室では、仏作って遊入れずになります。皆活用されてこそその公民館です。規定に従って充分ご利用下さるよう願います。

さて、よりよい常態で利用して頂く為次の利用法が、各教室、講座、団体の代表者の話し合いにより決定されました。

- 一、使用許可申請書の提出。
- 一、使用責任者は事前に、(要すれば電話でも)定期的に使用の場合。
- 一、教室名講師助言者生徒名等届出のこと。
- 一、利用責任者は、公民館使用日誌の記帳をすることにも、整理、清掃して原状に復して係員に引渡すこと。

以上利用者相互の爲ご協力願います。

改装竣工式を終って

徳山市役所長 澄田 寛

昭和四十六年よりの国民宿舎長穂荘が、この度徳山市役所長穂支所、及び長穂公民館と変わりました。地域の皆様、工事関係者等のご熱意により、平成元年度

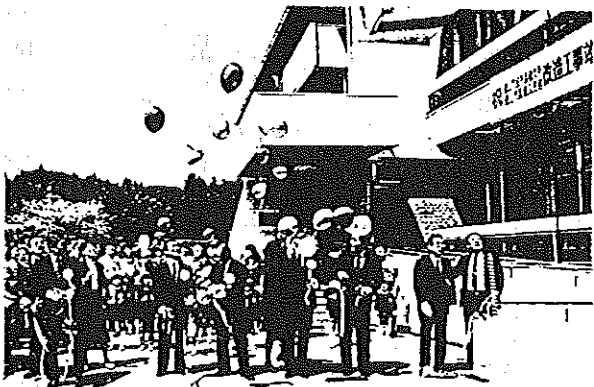
より予定の運びとなり、先般四月十一日竣工式も盛大に行うことが出来ました。有難うございました。今後の皆様のご利用ご活用を期待いたします。と共に一言お礼の言葉といたします。

平成元年年度自治会費決定(候補)

- | | |
|-----|-------|
| 筋地上 | 八木 有信 |
| 下筋下 | 深町 敏一 |
| 下筋上 | 三輪 博昌 |
| 別谷 | 山本 勲 |
| 別山 | 竹本 義夫 |
| 木津 | 岩本 幸綱 |
| 門前 | 国兼 初喜 |
| 宮原 | 佐藤 賢一 |
| 市原 | 金本 勇 |
| 合下 | 江波 武 |
| 熊手 | 橋本 那雄 |
| 山手 | 岩本 綱枝 |
| | 山本 伸治 |

ピカピカの小学一年生紹介

- | | |
|-------|-------|
| 司三 舞子 | 子子 瞳奈 |
| 綱秀 奈紀 | 美華 沙宏 |
| 本野 加由 | 久美 華沙 |
| 藤野 本林 | 田田 井 |
| 矢野 高竹 | 西原 裕安 |
| 人史 郎介 | 志高 |
| 重瓜 貴裕 | 高 |
| 井兼 重田 | 木 |
| 河国 国藏 | 清 |



写真は竣工式後の一瞬

お知らせ

○駐在所警察官の移動がありました。着任された 飯田 政文 さんの一言 犯罪のない住みよい長穂地区をめざして頑張ります。家族共々どうぞよろしく。

尚軟任された黒田孝文さんは徳山本署へ

○卓球教室のあんない

日時 毎週 水・土曜二日 午後八時〜十時

場所 長穂小学校講堂(体育館) 世話人、宮原藤本佳男まで

○老人クラブより

○会員増強中です。六十才以上の方仲間になって下さい。○一円玉貯金をよろしく。○春の交通安全通間の立哨ありがとうございました。

慶弔近報

出生。西林弘典 3月9日生 父幸博 二男 加納広文 3月10日生 父敬士 長男 各々おめでとうございます。

行事予定

- 4月27日 防災訓練
- 5月28日 春季体育大会(庭球場秋月中)
- 5月28日 臨時休業
- 5月29日 臨時休業
- 5月30日 育友会総会
- 6月2日 臨時休業
- 6月7日 一二年バス旅行
- 6月9日 三年修学旅行
- 6月10日 振替休日
- 6月15日 六年修学旅行
- 6月16日 念仏踊練習
- 6月22日 三四年バス遠足
- 6月23日 一年遠足(三年バス遠足、五年バス旅行)
- 6月25日 生徒総会
- 6月28日 クリーン作戦
- 6月28日 PTA草坊作業
- 6月28日 貯金日が火曜から水曜に変わりました。

編集後記

本頁のわが町公民館の改装式は、四月十一日(日)に挙げてまいりました。加えて、お慶びの朝に突入いたします。なにも改装して頂くわけにはなりません。お慶びも、お慶びなれはなりません。是で、慶びを忘れないう。